# 第４回胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会 議事録

１　開催日時　　令和３年７月７日（水）　午後３時から午後４時47分

２　開催場所　　胎内市産業文化会館　会議室

３　議　題　　(1) 前回の質問事項について報告
(2) 答申書（形式及び内容・骨子）とスケジュールの修正案について
(3) 子ども・教職員対象アンケート調査の実施について
(4) 意見交換（グループ協議）
テーマ「統合しないとした場合について」

４　公開・非公開の区分　　公開

５　出席者　　委員長　桐生　和文
副委員長　小野　正敏（１グループ）
委　員　橋本　定男
委　員　宮薗　　衛
委　員　須貝　欽也（１グループ）
委　員　河内　理助（２グループ）
委　員　小林　　勲（１グループ）
委　員　渡邊　俊一（２グループ）
委　員　小田　　大（２グループ）
委　員　近　真由美（１グループ）
委　員　渡邉　英実（２グループ）
委　員　花野　真也（１グループ）
委　員　中村　祐一（１グループ）
委　員　丹後　直子（２グループ）

教育長　中澤　　毅
学校教育課長　佐久間伸一
管理指導主事　松原　利弘（２グループ進行）
指導主事　山沢　正仁（１グループ進行）
庶務係長　須貝　　彰

庶務係主任　　川崎　大介

6　会議資料　　資料１　答申書（形式及び内容）－案－
［想定する答申書の形式と内容（修正案）］
資料２　答申書（骨子）－案－
［第３回検討委員会までの意見概要を、答申書（修正案）の形式に差し込んだもの］
資料３　今後のスケジュール－修正案－
資料４　中学校における適正規模に関するアンケート

7　傍聴人の数　０人

8　会議の概要（要旨）

---

(1)　開会

○　議　長

本日はご多用のところご出席いただきありがとうございます

ただ今から、「第４回胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会」を開催いたします。

本日、出席者が全委員の過半数を超えておりますので会議は成立します。

なお、本日、花野純恵委員、岡松委員、野尻委員、久世委員、佐藤委員の５名が欠席であります。

それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

次第の２、前回の質問事項について報告を行います。

事務局から報告をお願いします。

---

(2)　前回の質問事項について報告

○　指導主事

前回ご質問のありました、中学校の１学級35人以下学級の動向についてです。ここに触れる前に、小学校ですが、この４月１日から35人以下学級へ移行しています。ただし、いきなりではなく、今の２年生が、学年が上がるにつれて35人学級が拡大していくということになりますので、令和７年度に小学校すべての学年が35人以下学級というところで進めています。

中学校については、現在、明確なものは文部科学省から示されておりませんが、「今後の教職員定数の在り方等に関する国と地方の協議の場」が文部科学省で

立ち上がっています。この中で、全国知事会の飯泉会長が中学校の35人以下の実現に向けて積極的に動いてほしいという要望を出しています。また、６月29日、萩生田光一文部科学大臣の記者会見が文部科学省のホームページに載っておりまして、その一部を読ませていただきます。「一人一人に応じたきめの細かな指導は小学校のみならず、中学校においてもその必要性に変わりはないと認識しており、今後小学校における学級編制の標準の引き下げを計画的に実施する中で、しっかりと効果を検証し、中学校を含め学校の望ましい指導体制の在り方について検討してまいりたいと思っております」というメッセージを残しています。つまり小学校での効果を検証したうえで、中学校の35人以下学級に進みたいということですが、何年度からというような細かいところはまだ示されていないというのが現状です。以上です。

○　議　長

ありがとうございました。

今の件について、ご質問はございますか。

＜発言なし＞

○　議　長

それでは次に協議事項に入ります。はじめに(1)答申書の形式及び内容・骨子とスケジュールの修正案について、事務局から説明をお願いします。

---

(3)　協議事項①

○　管理指導主事

資料１、標題「答申書形式及び内容（案）」でありますが、前回の検討委員会を受けまして、形式、項目立てを変えていますので、説明させていただきます。大きな項目は三つです。１基本方針に、前文に続きまして(1)学校の規模、(2)通学の在り方、(3)地域と学校の在り方等の項目を取り込みました。この三つは、前回の案において実現の方策という項目としていましたが、基本方針の内容に近いということで、その中に取り込みました。そして大項目の２では、想定される学校の在り方と実現に向けた方策、具体的な方策について、記述していくということであります。資料１の３枚目です。大項目の３に留意すべき事項を新たに項目立てしています。

では項目ごとに少し内容を説明します。資料１の１枚目の基本方針に戻りますが、前回から書き足したものについて緑色の文字で示しています。基本方針の前文、大きく修正したのが４段落目です。この答申は「①保護者の代表や地

域の代表を含めた幅広い立場の検討委員によって、」とし、検討委員会の特質を述べ、次に「②公平性と多様性を確保し、充実した教育活動の実現を視点とし、」「③子どもたちの将来を見据え、未来に向けた提言となるように、開かれた会議の中で議論を重ねたものである」と、答申の目指す方向の概略を述べさせていただきました。その下の（1）、（2）、（3）では、基本方針の骨子になる内容を少し詳しく示しました。（3）地域と学校の在り方については、前回の答申書の形式案には文章で示していませんでしたが、４行で文章化させていただきました。一義的に学校規模を考えない、地域の実情を大切にしたい、児童生徒が日常的に地域と関わる仕組みを作っていくべきであるということを示しています。ここまでが基本方針になります。

次に、想定される学校の在り方と実現に向けた方策とし、具体的な学校の在り方、（1）統合しない場合、①４校現状のまま②小中一貫型小中学校という形で示しました。前回、小中一貫型は配慮事項の一部から、項目として取り出す必要があるというご指摘をいただきましたので、中項目に取り出して検討を加えるということにさせていただきました。これまで「配慮事項」と記述していた(ｱ)、(ｲ)、(ｳ)、(ｴ)については、「検討の視点」とさせていただきました。今後検討委員会で、主にこのような視点で協議がなされてはどうかということであります。なお、最終的な答申書の形としては、(ｱ)、(ｲ)、(ｳ)、(ｴ)それぞれを箇条書きにまとめていくのではなく、検討された内容を成文化する、文章としてまとめていく形としたいというふうに考えています。

次に資料２については、今申し上げました資料１の形式に、これまでに出されたご意見、ご質問を差し込んだものであります。前回のものと内容は変わっていませんが、もとになる形式が変わっていますので、配置が若干変わっています。緑色の部分が前回から追加されたもの、青色の部分は前回から記述があるものです。詳細は前回と変わっていませんので、説明は省略させていただきます。以上です。

○　学校教育課長

続きましてスケジュールについてご説明させていただきます。資料３をご覧ください。前回提案のスケジュールと変わった個所について朱書きでお示ししました。大きく変わったところは、想定される学校の在り方において、併設型小中一貫校について協議する機会を新たに設けたというものであります。結果、検討委員会の開催数が１回増え、全７回の予定から、全８回となり、答申書の提出について令和４年１月を予定していたものを、令和４年３月に変更したものであります。その他スケジュール表の記載の順序、文言の整理をしています。以上です。

○　議　長

ありがとうございました。ただ今事務局から説明がありましたが、ご質問、ご意見がございましたら、お願いします。

＜発言なし＞

○　議　長

答申書については、今後の審議の内容を受けて盛り込まれていくものもあるということです。そして最終的に、委員の皆さんの考えを網羅した答申書に仕上げていくというふうな形で進めていくということでございますので、よろしくお願いします。

それではよろしいですか。

＜異議なし＞

○　議　長

それでは修正された答申の形式及び内容、それからスケジュールについて、このような形で進めてまいりたいと思います。よろしくお願いします。

それでは次に、(2) 子どものアンケートと教職員のアンケート、その実施について、説明をお願いします。

○　指導主事

資料４をご覧ください。胎内市中学校における適正規模に関するアンケートについて、ご説明させていただきます。まず生徒に関するアンケートですが、中学３年生を対象に考えています。これは小学校、中学校９か年の義務教育期間をすべて経験し、一番中学校の動向等々がわかると思われること、また高校進学を前にしたというところも含めて、この適正規模に関するアンケートの対象として、一番ふさわしいのではないかと考え、中学３年生を対象としました。

設問１と２では、「大きな規模の学校の長所はどんなところだと思いますか」、「大きな規模の学校の短所はどんなところだと思いますか」を問います。大きな規模かどうかについては、中条中学校を大きな規模の学校、乙中学校・築地中学校・黒川中学校を小さな規模の学校とアンケートの中で規定し、それぞれの自分が思う長所、短所を自由記述してもらい事務局で集約したいと考えています。設問の３では、今日も話題になると思いますが、交流活動に関して生徒の意識を捉えたいと思っています。カッコ１で、校内での学年を超えた交流活動について、「大切」「まあまあ大切」「あまり大切ではない」「大切ではない」の４段階で評

価してもらうことを考えています。５段階、３段階ですと、「どちらともいえない」という意見が考えられますが、今回はそれを排除した４段階の評価を考えています。そして「できれば、そう考えた理由も書けたら書いてください」という欄も設けています。ここで出てくる理由も精査し、生徒の考え方を捉えようと思っていますし、理由を問うことで、ある程度責任を持った回答をしてくれるのではないかとも考えています。カッコ２の市内他校との交流活動をどう思うか、カッコ３は地域と関わる交流活動についてはどう思うかを捉えたいと思っています。設問４については、「統合」、「統合しない」場合の４つのケースを率直に生徒がどう捉えるか、「よい」「まあまあよい」「あまりよくない」「よくない」という評価にしています。こちらに関しても、そう考えた理由も書けたら書いてくださいという欄を設けています。４つのケースは、「(1) 今のまま４つの中学校を存続する」、「(2) 小中学校を一つの校舎に設置する。比較的新しいＡ小学校の校舎にＡ中学校が移動し、小中学生が一緒に学ぶ。ただしＡ小学校、Ａ中学校はそのまま存続」、「(3) 市内４つの中学校を一つにする」、「(4) 中条中学校はそのままで、乙中学校、築地中学校、黒川中学校を一つにする」。この委員会の中で想定しています４つのケースついて、それぞれで聞きたいと思っています。この中で理由として、例えば、通学がどうとか、部活がどうとかということが出てくれば、拾い上げることができると思っています。そして設問の５番、「将来の胎内市の中学校について思ったことがあったら書いてください」という自由記述を設けました。生徒に関するアンケートについては以上です。

次に教職員用ですが、大きく変えた項目はございません。教職経験を生かして、大きな規模に関する長所、短所、小さな規模に関する長所、短所を聞きます。そのほかの設問については、生徒と同じにしてあります。教職員の意識と生徒の意識にずれがあるのかどうか、例えば交流活動は、教職員は重要視しているが、生徒はあまり経験がないとか、いろいろな傾向が出てくると思いますので、今後の検討材料にするというところがアンケートの狙いでございます。

○　議　長

ただ今説明がありました生徒対象と教職員対象のアンケート、その実施について、ご質問、ご意見がございましたら、お願いします。

○　委　員

中学校３年生向けと教職員向けのアンケートの「以下の活動は大切だと思いますか」という設問がありますが、現在やっていないものも含まれているという捉えでいいですか。

○　指導主事

そのとおりです。

○　委　員

この中に部活動が除外されているのは何か意図があるのでしょうか。

○　指導主事

この検討委員会の中でも、10年後の部活動等々を考えたときに、部活動が大きな判断材料、大きな指針にはならないのではないのかという方向になっていますので、項目としては今回設定をしませんでしたが、理由の記入欄や、自由記述の欄の中で出てくれば当然取り上げたいと思います。

○　議　長

よろしいでしょうか。

○　委　員

はい。

○　議　長

部活動については、今後の動向とか考えたときに、統合等のその視点にはなり得ないのではないかというふうなことでございます。ただし、そのことについて意見を却下するということではなくて、設問５の将来の胎内市とか、記述の欄で出てくれば、しっかりと受け止めていきたいというふうな考えでありますが、よろしくお願いします。ほかございますか。

○　委　員

設問４の「将来の胎内市の中学校」のところの併設型のことについてですが、例えば説明資料を付けるなり、あるいは先生方が理解したうえで、先生方が説明しながらやるとかしないと、子どもたちが具体的にイメージできず、意味が分からないまま回答されてしまうのではないか危惧されますが。

○　議　長

事務局いかがですか。

○　指導主事

中学３年生に分かりやすくということで、必要があれば説明資料を付けたいと

思います。

○　議　長

私たちはイメージしながらこの項目を見ているわけですが、委員が言われたように子どもたちからすれば、小中の一貫型ってどういうことなのだろうということになります。イメージを持たせてあげないと、アンケートの回答もあいまいになってしまうだろうということであります。対応よろしくお願いします。委員、よろしいでしょうか。

○　委　員

よろしくお願いします。

○　議　長

ほかございますか。

＜発言なし＞

○　議　長

ほかご質問、ご意見がないようであれば、事務局から説明がありました、生徒及び教職員対象のアンケートの実施について、ご了承いただけますでしょうか。

＜異議なし＞

○　議　長

それでは７月にアンケートを実施するというふうな形になりますが、よろしくお願いします。

続いて、協議事項カッコ３に入りますが、ここからは想定される学校の在り方と実現に向けた方策について、より掘り下げた協議を進めてまいりたいと考えています。

本日のテーマは「統合しない場合、４中学校の現状を維持するとした場合」についてです。委員の皆さん全員が意見を出し合い、意見交流ができるようグループ協議という形で進めてまいります。また、答申書案に示されているように、これまでの意見をベースに議論を進めていただければ、より深まっていくというふうにも思っています。先ほど管理指導主事のほうから、話し合いの視点として４つ挙げさせてもらいました。そこには部活動も入っておりますので、そのことも含め議論を進めていただきたいと思います。

なお、副委員長にはグループに入っていただきますが、学識経験者である橋本委員、宮薗委員からは、最後にグループ協議を踏まえ、ご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

各グループの進行役はあらかじめお願いしています。時間は、今から約40分、午後４時10分を目途にグループ協議を進めていただきたいと思います。そして終了後、第１グループ、第２グループの順番で、それぞれの協議内容を３分程度で発表いただき、その後、お二人の学識経験者の委員から意見をいただくという流れを考えておりますので、よろしくお願いします

それではグループ協議をお願いします。

＜グループ協議＞

○　議　長

進行のお二人、ありがとうございました。

それでは早速ですが、第１グループから順に、それぞれの協議内容の発表をお願いしたいと思います。それでは第１グループからお願いします。

○　１グループ進行役

交流活動ということでまずお話をしました。その中で学校間の交流、これが中学校では現実的にあまりなされないことから、難しいというところから話がスタートしました。そもそもそれが必要なのかということについては、やはり少ない人数のクラスが１学級だけという環境を考えると、要するに大人数による経験とか、高校進学した後、何クラスもあるような環境に適応するためにも必要なのではないかという観点から、まず現実的なのは修学旅行に一緒に行くとか、合唱コンクールを合同で行うなどが挙がりました。しかし一緒にいればいいという訳ではなく、生徒間の交流、これを前提にしてやらないと難しいのではないかということです。それぞれ修学旅行も合唱コンクールも４校でやるとやはり難しいだろうというのが共通した意見でありました。合同部活動であるとか、授業を定期的に合同で行うというと難しいですが、何かスポット的な授業、例に出したのは、薬物乱用防止教室であるとか、何々教室というようなところをスポット的に集まって行ったり、タブレットを使って行ったりというようなところで、交流ありきで考えたらいかがか。ただやはり学校間の日程調整であるとか、教員の意思統一が難しいだろうというところが話に出ました。多忙化を促進してしまうのではないかとか、それらを取り払うためにも子どものやりたいことを第一にするということ、教職員間の交流も図っていけばよいのではないかという話です。交流活動は大事ですがハードルがやはり高いかなとい

うところで、これからクリアしていく方策を見つけていかなければいけないというのが、一致した意見でした。そのほか、そもそも校舎はもつのかというのがありました。

それから小規模校の良いところとして、人数が少ないことによるきめ細やかな指導であるとか、一人一人の顔や特徴がわかった指導ができるとか、そこは生かせるのではないか。それからやはり地域との関わりが残るという部分、防災の拠点であるとか、地域と生徒はやはり学校が無いと繋がらないような気がするとか、地域と関わることで学校も得をする部分など、統合しないことによってそれぞれのよさが残る。その中でも地域貢献、地域学習が今盛んに行われていますので、これを学校間で交流するというような形が、現実的に効果があるのではないかというところで話がまとまりました。

○　議　長

続いて第２グループよろしくお願いします。

○　２グループ進行役

まず話の皮切りに出たのが部活動のことで、したい部活動が無いから、ほかの中学校へ行ってしまうというのは寂しいということでした。そこから解決策として、部活動は市内統合型のセンター方式で進めればいいのではないか、そうすればいろいろな交流もできるし、ほかの中学校に行く子もなく小学校の子がそのまま残れるのではないか、ただし、どうやってそれを組織して運営していくか難しいという話になりました。移動をどうするのか、通学路の整備をしなければならないなど。そして２グループも交流のことについてたくさん話が出まして、小規模校は人が少なく、いろいろな行事が盛り上がらない。そうであれば合同体育祭をすればよいのではないか。また、そもそも交流の意味は何かといったら、やはり多くの人と接することがとても大事で、教育的意義があるという話が出ました。小規模校はどうしても同じメンバーなので刺激が無くて変化がない、そこで合同的な活動をすればよいということなのですが、心配な点はカリキュラム、教育計画がありますので、そこの組直しや調整がとても大変になってくるという問題点があります。また、縦割り、つまり中学校の学年間の交流ってありますかと中学校の丹後校長先生に聞いたら、部活動がその役目を果たしているという話がありました。小規模校で変化がない、交流が無いのは部活動のセンター方式や合同部活動があれば、多くの生徒と触れ合えるだろうという話が出ました。地域との交流については、統合しない場合であっても、その学区を深く学ぶ、または中条中学校の場合のように学区を飛び出して、坂井のコケを学ぶというようなこともできる、今はそういう時代だから、統合する、しないにかかわらず

地域との交流は可能であります。もう一つ、小規模校で交流のことを考えたときに、ＩＣＴを活用して広く様々な地域と交流もできるし、学校間での交流もできるのではないかということでありました。通学について何か心配なことはあるかについては、安全を考えたら小学校、中学校全部バスにしたらどうかという話になりましたが、そのためのバスの運行には、小学校と中学校の登下校等の時間が合わないとの話が出ました。ここはまだ検討が必要かと思いました。そのほかに、統合しないと統合するよりも先生の人数が多くなるので目が行き届く、それは統合しないよさという話が出ました。

○　議　長

ありがとうございました。やはり両グループとも、現状がどうなのか、現状を踏まえて、より充実させるにはどうしたらいいのかという視点であったというふうに思いました。

それでは、橋本委員、それから宮薗委員からご意見をいただきたいと思います。

○　委　員

やはり現状のまま統合しないという形で行くのであれば、何と言ってもまず交流です。学校間の交流、これは１グループも２グループも一緒でした。

学校間の交流は３つぐらい考えられます。一つは教育活動、学校行事を中心として、合同の体育祭や合唱コンクールや修学旅行など主に特別活動になるでしょうか、大きなイベントで交流すること。その時に、ただ一緒に楽しむだけではなく、グループワークを取り入れたり、できるだけ関りを持つようにして、大勢の集団で切磋琢磨する部分をつくるとなると、それには準備も必要であり先生方の負担が増えるので、教職員の働き方改革という部分と重なることになります。しかし、統合をしない場合でも、これをやればもっといい効果が上がるという積極的な理由に基づいて行えば可能であり、その理由は、交流から導かれるというのが１点目だと思います。

そして、例えば総合的な学習の時間で学校を出て地域に入り、何か学習活動をするという時にも交流はできないものか、もし学習活動自体が難しいのであれば、それぞれの学校で学習した成果の発表の場を合同でやるという、これは第１グループで出たでしょうか、なるほどそういう交流もあると思いました。

特別活動、学校行事を中心としたもの、総合的な学習を中心として地域に入り行うもの、これで二つです。

もう一つが授業です。先ほど単発的、トピック的な授業というのがありましたが、そのほかにもＩＣＴ、タブレットを使って、オンラインで学校にいながら、授業や何かしらの教育活動を合同でやることは、今、国も予算をかけて、教育委

員会もその実現に向けて一生懸命頑張っていることと思いますが、本委員会としても、わざわざ建物を一緒にしなくてもできるという、これはやはり追求する必要があると思います。

一つ提案ですが、交流についてのハードルは非常に高い。先生たちが大変です。それから単発的にアイデアを出し合っても足りないと思います。それで、仮に現状維持のまま、統合しない形で行くのであれば、交流に関わる組織が必要だと思います。できれば５者会議、要するに先生、地域、保護者、行政、これで４者になりますが、そこに生徒を入れる。どのグループでしたか、生徒のやりたいのが大事でそれを何とか生かしたいという考えがありました。先生、住民、保護者、行政、生徒、この５者で、交流を中心として、どうしたらいいか意見を出し相談する会議のようなものを立ち上げる必要があると思います。それを前提として、統合しない場合の附帯事項というか、条件にしたほうがいいと思いました。

その他に部活動のセンター方式はいいなと思いました。部活動はみんなで一緒にやるというすごく良いアイデアだと思いました。

最後にもう一つ、交流の他にキーワードは小規模校の良さです。積極的に小規模校の持っている良さを訴える必要があります。今のところはまだ一人一人の目がよく行き届くとかいうように少し精神論的になっていますが、もっと具体的に、生徒指導上の問題への対応とか、あるいは学習に関してサポートする仕組みとかなど小規模校の良さを積極的に訴えられればと思いました。

終わりに、さきほど５者会議という話もしましたが、統合しない場合ということはその地域の特色が大事にされるということになると思います。黒川中学校が頑張っている良さって何でしょう。築地中学校って何を頑張っているのだろう。乙中学校はこれだという売りは何なのだろう。それぞれの学校が持っている教育資源やＤＮＡとして守ってきているもの、ずっと大事にしてきている何かはある訳ですが、中条中学校の生徒が乙中学校の大事にしてきた良さに触れるというみたいに、今ある各校の教育資源や大事にしてきているものの発掘、活性化と交流が生かされるなら、今のままのほうがいいのではないか、人数がぎりぎり守れる限りはぜひ今のまま残して、良さを生かして、交流して行こうというふうになって行くと思います。そのような方向になったら、生徒も含め交流の組織を作って、具体化し当面 10 年ぐらいの胎内市の目指す教育の在り方という形で示す胎内モデルみたいになって行けば素敵だと思いました。

○　議　長

ありがとうございました。それでは続いて宮園委員、よろしくお願いします。

○　委　員

今の橋本委員のお話しで、ほぼ言い尽くされているかもしれないですが、まずは部活動のところで、さきほどセンター方式、拠点方式ありましたが、その考え方の一つの根本的なところは、どの子どもにも希望する部活動をできるだけ保障して行こうという、これは本当にすべてを保障できるかどうかはわかりませんが、地域の中で子どもたちの部活動を支えていくというふうに私は受け止めました。当初、統合の一つの理由として部活動がなかなかできないのでという意見もありましたが、考え方によって、今のような形で解決できるところがあるのではないか思いました。ただし、実際に移動をどうするのかという課題はあると思いますが、そういう課題をクリアすることのほうに価値があるというふうに考えて、どうやって私たちは一緒に乗り越えて行くのか、そういう前向きな考え方が一つあっていいのかなと思いました。

そして２つ目ですが、いろんな多様な人と出会うということによって、新しい世界に触れるということもあるでしょうし、社会性を育んでいくということもあると思いますが、その時に生徒だけなのかどうかということも実は考えて欲しいところです。地域の人々も一緒になってそういう交流を作り出していく、そのような動きが出てくることによって、今ある学校と地域との関係が実は変わってくるのではないかというように思います。例えばさきほど防災という話もありました。今私たちの社会は、いろいろな問題、思いもしないような問題と言いますか、想定外のいろいろな非常事態に備えなければいけない、そういう時代に一方ではなってきているというふうに思います。そのような中で、生徒、特に中学生は大人から守られているというだけでなく、地域の中で自分たちがなし得る役割を担っていくという、そういうことも注目されてきていると思います。それだけの力を発揮できる、子どもたちだろうと思います。そうすると、地域が学校を支えるということもあるでしょうし、子どもが地域を今度は作り出していくというか、そういう双方のＷｉｎＷｉｎの関係がそこにあるのだろうというふうに思います。地域の未来を一緒に作っていくということと同時に、自分自身の未来をその関係の中で発掘できる、作り出していくそういう力を育んでいくということになってくると思いますし、これは今、学校教育が求めていく力だろうと思います。その時に、これは決して新しい言葉ではないのですが、社会関係資本というソーシャル・キャピタルという概念があって、その中で３つ大事な要素があります。人間関係を大事な社会の資本という考えでみると、一つは信頼です。お互いの信頼関係を築いていくということです。もう一つはネットワーク、人と出会っていくとかということです。もう一つは互酬性、例えばボランティアをするとか、地域の中で地域のために働いていくなどです。

こういうことが東日本大震災の中でも見直されてきたという、日本社会の良さです。地域でも作っていくし、子どもたちも今度は地域で作り出していくとい

う関係が大事になってきます。その時に小さい学校であったとしても、生徒たちが一人一人の地域の人たちと顔を合わせて、名前がわかるとか、声をかけられるとか、そういう関係性が新しい地域を作り出していく。小規模校であったとしても、生徒たちが地域と触れ合っていく、地域の皆さんが学校に入っていく、お互いを支え合っていくという関係は、しっかりできるのではないのかなというふうに思いました。

一方で、体育祭を学校間でやってもいいのではないかという話もありましたが、カリキュラムをどうするかという難しさがあるのではないかと感じました。でも今は、先生方の意識というのはなかなか一挙には変わり得ないところはありますが、学校を越えたカリキュラムを一緒に作って行こうとか、時間調整しましょうとか、時代が流れる中で、できていくのではないかというふうに思っています。

もう一つは、小規模校の良さというのがあったかと思いますが、もう少し検証していく必要があるというふうに思います。中には、人数を小規模にしたからといって学力が上がるとは限らないというような調査や、一方で、新型コロナとかそういうことに対する対応というのは、小規模校のほうがしっかりと対応ができているとか言われているところもありますので、もう少し洗い出していくことが、大事なのかなというふうに思いました。

○　議　長

ありがとうございました。

聞いていて夢があるなというふうな思いをしました。方向性も一つ示していただいたのかなというふうに考えております。

以上で本日の協議は終了となりますが、委員の皆さんから次回こんな資料を用意して欲しいとかございましたらお話をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

＜発言なし＞

○　議　長

ないようですので、その他、事務局からありますか。

○　学校教育課長

それでは、次回のご案内をさせていただきます。

次回の会議は９月の開催を予定しています。内容は、生徒及び教職員対象のアンケートの調査結果の報告、そして併設型の小中一貫校についてより深く協議

いただく予定としています。
よろしくお願いします。

○　議　長
それでは、閉会の挨拶を小野副委員長よろしくお願いします。

○　副委員長
長時間にわたりましてお疲れ様でした。本当に足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございました。
今回、グループ討議という形をとらせていただきました。なかなか大人数の中では、意見を出してくださいと言っても少し話しづらいのかなという雰囲気が感じられていましたので、ざっくばらんにということで、このような形を取らせていただいた次第でございます。今後、答申案をまとめるところまで、このような形で話を進めて行きたいと思いますので、忌憚なくご意見を出していただければというふうに思います。
今回は４回目ということで、全体の折り返し地点というふうな形になります。最終的にいい答申ができるように今後ともお力添えをいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○　議　長
それでは、これで本日の会議を終了させて頂きます。本当にお疲れ様でした。

午後４時４７分　閉会